

地域工芸品のデザイン開発

－桐工芸品のデザイン開発－

工芸・意匠部 佐藤 茂 坂爪 幸重

1. 緒 言

伝統工芸とは過去から永く引き継がれた伝承であり、当時の技術で作られた製品が当時の生活必需品であった。しかしそのままの技術で、そのままのモノを作っていたのでは伝統工芸品で終わってしまう。従ってそれらの特徴（素材、形状、仕上げ方法等）を生かして現代に近づけ、いかに今日の生活の一部に取り込むかがこれからの課題である。

洋風化した衣・食・住は定着されたようだが、未だ「和」への憧れは根強い。従って木材の素材感を生かした工芸品は今日の生活に取り入れられる可能性がある。

よって本研究ではモノの収まり方を考慮したサイズ、今日の感覚に合った形状等に重点をおいて開発を行った。

2. 内 容

広い用途が考えられるソーサー（銘々皿）を10種類試作した。（写真参照）

材 料：キリ材

加 工：ひき曲げ、象眼

仕上げ：ウツクリ仕上げ

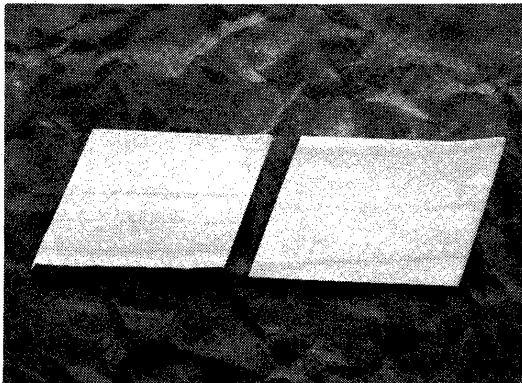


写真 1

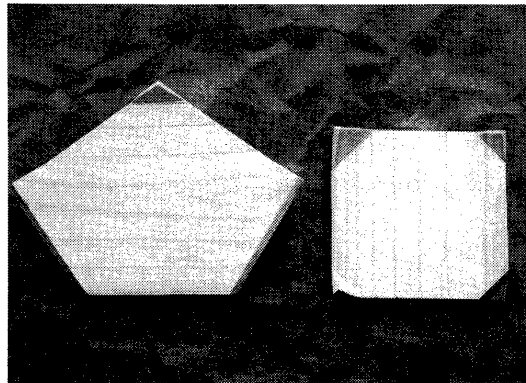


写真 2

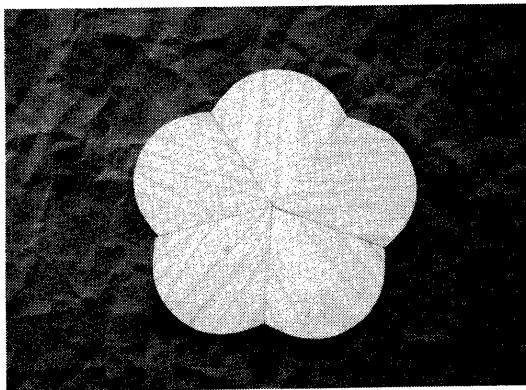


写真 3

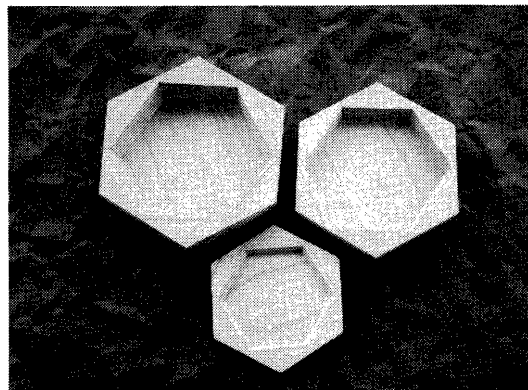


写真 4



写真 5



写真 6

3. 結 言

以上の試作品は直線を主体としているためスタッキングしやすく、且つ汎用性のあるモノとなった。またこれらのスタイリング、プロポーションは茶托、花台、菓子皿など他のアイテムにも応用でき、バリエーションを広げることができる。またシリーズ化も可能で、コーディネートによっては和風にも洋風にも使用できる。